

モデル事業名	既存資源を活かした産官民連携によるまちづくり組織「上士幌コンシェルジュ設立」プロジェクト
活動団体名	カミシホロコウマツリカキジウノシケンカイ 上士幌町交流と居住を促進する会
ホームページ	・上士幌町役場 <a href="http://www.kamishihoro.jp/">http://www.kamishihoro.jp/</a> ・移住.com <a href="http://www.ijyuu.com/">http://www.ijyuu.com/</a>
所属/ 担当者名	上士幌町役場商工観光課/小林 達也
連絡先	電話番号 01564-2-2111、Eメールアドレス <a href="mailto:kobayashi-tatsuya@town.kamishihoro.hokkaido.jp">kobayashi-tatsuya@town.kamishihoro.hokkaido.jp</a>
活動地域	上士幌町内

### ● 活動地域の概要

北海道十勝管内北部に位置する上士幌町は、約 700 k m<sup>2</sup>の広大な面積を抱え、南部の平野部には畑作や酪農地帯が広がり、北部には大雪山国立公園を中心とした森林が広がっており、農畜産物、豊かな自然、温泉、景観、文化財など多様な地域資源に恵まれた地域である。しかし、上士幌町も北海道内の他の市町村同様、過疎化、高齢化が進む中で、新たな魅力をもつ観光地づくりと併せて、移住・定住の促進等、都市と農山村との交流による地域活性化が緊急の課題になっている。

①人口・世帯数の推移 ※国勢調査より ( ) 内は世帯数及び高齢化率

昭和 35 年～10,570 人 (2,050 世帯、4.1%) 昭和 50 年～8,143 人 (2,295 世帯、7.6%)

平成 2 年～6,380 人 (2,213 世帯、15.5%) 平成 17 年～5,229 人 (2,215 世帯、30.1%)

②産業別就業者数の状況 ※国勢調査より ( ) 内は全体に占める割合

第 1 次産業～908 人 (32.7%) 第 2 次産業～450 人 (16.2%) 第 3 次産業～1,416 人 (50.9%)

③公共交通に関する状況

現在、民間バス会社 2 社により帯広市まで路線バスが運行されているほか、民間バス会社 3 社共同による都市間特急バス（帯広～旭川）が運行している。

④移住・二地域居住の状況 ※役場移住ワンストップ窓口相談のあったもののみ

平成 18 年度～2 組 5 人 平成 19 年度～4 組 6 人 平成 20 年度～8 組 15 人 平成 21 年度～2 組 3 人

⑤移住生活体験モニターの受け入れ状況

平成 18 年度～8 組 17 人 平成 19 年度～8 組 15 人 平成 20 年度～20 組 37 人 平成 21 年度～38 組 91 人



【位置図】



【人口減少が進む町なみ】



【平成 20 年築の生活体験専用モデルハウス】

### ● 活動地域の課題

上士幌町では、平成 16 年度に、健康・環境・観光をキーワードに、町の豊富な地域資源を活かし、その効果を科学的に検証しながら、各々の地域資源について付加価値を高め、都市と農山村との共生・対流による地域活性化を図る「イムノリゾート上士幌構想」を策定し、下記 (1)～(3) のような活動を実施してきた。

(1) 役場：移住ワンストップ窓口の設置、ホームページやブログによる情報発信、生活体験モニター事業の実施。

(2) 上士幌町交流と居住を促進する会：不正形等農地・空き家調査、首都圏プロモーション等の実施。

(3) 民間事業者：町内の廃校跡を活用した林間学校の実施等、様々な体験活動を通して都市住民と地域住民との交流促進の実施。

これらの事業は、それぞれ、行政、地元団体等、民間事業者が単独あるいは連携して実施してきているが、より効果的かつ有効な取組みとするためには、全体をコーディネートしながら主体的に事業を実施する必要があることから、平成 20 年度及び平成 21 年度に「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業を活用し、平成 22 年 6 月に地元住民の協力者からなる、まちづくりのための組織「NPO 法人上士幌コンシェルジュ」の立ち上げに至った。

今後、NPO 法人上士幌コンシェルジュの活動を通じて、都市と農山村の共生・対流を目的とした各種事業を実施し、その持続的かつ安定的な運営を目指す。

## ● 活動の内容

### (全体)

NPO法人上士幌コンシェルジュの設立及び持続的かつ安定的な運営に向けて、以下の取組について調査・実証実験を行った。

- ①旅行代理店事業の実証実験
- ②地場産品を活用した新商品開発・物品販売事業の検討
- ③二地域居住・移住促進のための不動産管理事業の検討
- ④上士幌町移住促進プロモーション事業の検討

### (直近1年間の進捗など)

平成22年3月までに上記取り組みの実施・検証を行った。

平成22年6月、NPO法人上士幌コンシェルジュの設立に至った。

## ● 活動の成果

### ・全体

産学官それぞれの主体が、今回の林間学校のような活動の「核」となるものに企画段階から参加すること、また町民が都市住民と直接ふれ合い、自らが街の素晴らしさを伝えることで、町内の実施主体のモチベーション向上とコミュニティの創生が図られた。



【上士幌ならではの体験を楽しむ参加者】



【食を通じた地元住民との交流】

### ・直近1年間の成果など

NPOの設立をキッカケに地域全体によるまちづくりに向けた住民意識の向上が図られている。

今年度は、夏の観光客が多く訪れる上士幌町航空公園キャンプ場ガイドを発行したほか、町と商工会が実施した住宅対策に関するアンケート結果をもとに、町の住宅政策への提言を行う等、地元密着型の活動を進めている。

次年度以降は、移住体験住宅用住宅を活用した企画や移住定住促進プロモーションを中心にさらに活動の幅を広げていく予定である。



## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

上士幌の既存の資源（自然・食・施設等）に加え、人と人とのコミュニケーションを「民」が主体となり行うことの意義は大きいですが、街の魅力を発信していくためのプロモーションや受入体制の整備には、人材や資金不足が大きな課題である。

### ・展望

NPOの活動は、移住定住促進に向けた活動を柱に、行政、民間それぞれの取り組みを補完する存在として、まちづくり全体への寄与を目指している。

今後は、町の観光事業だけではなく、商工会が主体となり実施している農林商工連携事業との協働も視野に入れた活動を広げていく。